



研究部だより

研究主題

生涯にわたる豊かな学びを目指した授業づくり
～児童生徒の夢や願いを基点とした
「わかはとシステム」の活用～

No.3 令和6年7月発行

全校授業研究会 小学部

小学部あおば学級 生活単元学習

あおば探検隊 修学旅行編～秋田と仙台の名物を調べよう～

小学部あおば学級では「わかはとシステム」に基づいた授業づくりを行い、6月7日に全校授業研究会を開きました。“児童の夢や願い”を基点に、どのような資質・能力を育めばよいのか、そのためにどのような学習活動や仕掛けを設定するか検討して授業を提示しています。今回の研究部だよりでは、授業づくりの過程や全校授業研究会でいただいた御意見・御助言をお伝えします。

わかはとシステムによる授業づくり

○児童との面談、保護者との面談による、“夢や願い”の聞き取り・見取り



・みんなと出掛けたい。
・先輩と話がしたい。
・お店屋さんをしたい。



保護者

・自分の思いを伝え、やりとりを楽しむ。
・下級生の手本になってほしい。
・自分のことを自分で丁寧にやる。



教師が子どもに願う姿

・自分のことは自分で取り組む。
・友達と相談して決める経験を重ねる。
・最後までやり遂げる。



「わかはとモデル」に基づいた目指す姿

人とつながる … 自分の思いを伝えたり、友達の思いを受け入れたりする。
情報を集める … 友達や周囲の様子を見たり、聞いたりする。
自分を知る … 楽しかったことや印象に残ったことを振り返り、言葉や写真を用いて表す。
興味・関心 … 「行ってみたい」場所や「やってみたい」ことを広げる。

生活単元学習「あおば探検隊 修学旅行編」

秋田と仙台の名物について自分たちで調べてまとめたり、調べた結果を基に修学旅行で買いたいお土産を決めたりする活動を行う。友達を意識して活動できるように、ペアでの活動を設定しながら「相談する→実践する→まとめる」学習活動を繰り返し行う。

つながりミーティング

・思いの伝え方を学ぶ機会 ・人とのつながりへの意識 ・国語科との関連
・うまくいかない経験から考える機会 ・やり遂げた自信や達成感 の充実が必要！
→ 児童同士の関わりや個人の思いへの価値付けをする。
ZOOMを活用し、仙台に詳しい人へインタビューをする活動を設定する。



目指す姿につながる仕掛け

相談活動



・友達を意識したり、協力したりして活動する

インタビュー活動



・人とのつながりを広げる
・見たり聞いたりして調べる経験を重ねる

気づきを記録する活動 (タブレット型端末)



・感じたことや思いを視覚的に共有し、振り返る

ペア活動



・友達を意識したり、協力したりして活動する



生活単元学習「あおば探検隊 修学旅行編～秋田と仙台の名物を調べよう～」

<はじめの会>



・会次第を手掛かりに自分たちで進行を行う。

<友達にお土産の希望を聞くアンケート作り>



・ペアで相談、役割分担をしながら制作活動に取り組む。
・教師が仲介や助言をし、友達とやりとりしながら制作する。

<制作物の紹介>



・工夫点を紹介したり、感想を伝え合ったりする。

協議題「友達同士で課題に向かう姿」や「自分の思いや気付きを表現する姿」につながるねらいや仕掛けについて

児童の姿

有効だった手立て

改善点

修学旅行のオリジナルソング

笑顔で歌う様子
張り切って歌う様子
みんなで学習に向かう意識
学習に見通しをもてる歌詞

過去の経験を生かす工夫

教師「どうやって聞く？」
児童M「アンケート」
活動の振り返り
実物の提示
経験を生かす
インタビューで得た情報の活用

教師の働き掛け

教師「何を載せたら分かりやすい？」
児童S「…」
「低学年の友達も分かりやすい」を具体化、言語化
→比較できる見本の提示方法
やりとりや思考をする時間の充実
→書く活動を簡易化
児童O「東北PREZ」と書く
↓ 教師の仲介
児童N「片仮名や平仮名だ」とい
児童の気付きに
思いを引き出す
つながる言葉掛け
代弁する言葉掛け

本時の課題提示

アンケートの見本を見て
児童N「これなら分かる」
「味(について書く)」
前に集まって
見本をみんなで見合い、
制作するものの例を吟味
ポイントを理解してから
制作するための
ポイントの焦点化や流れの検討
過去に自分たちが
答えたアンケートの提示
特徴が分かりやすい
3種類のアンケート
意見を伝える
機会の設定
課題の共有
相手意識
目的意識

児童同士の関わりや主体性

児童M「Lさんお願い」
「ここだよ」「書いてください」
ペアの活動
会話の仲介
具体的な話形の提示
児童Lの目指す姿や
活動内容・量の妥当性
「一人で」「自分から」
取り組む環境づくり
友達と協力することの
イメージや利点

【協議で話題になったこと、改善点】

・協力する必要性や利点を感じる経験
・自分たちで決定・選択する経験の積み重ね
・表現したり、伝えたりする方法を見て学ぶ機会の設定
・活動の絞り込みやペアの検討と、主となる活動の焦点化

<秋田大学教育文化学部准教授 鈴木徹先生から>

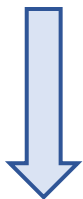
- ・ 悩むという体験自体が非日常的な体験。その積み重ねが自己選択や自己決定につながっていく。
- ・ うまいいかない経験が気付きを与える機会となる。うまくいかなかったことから何を学ぶのか学習を展開していくことが大切である。
- ・ 理解と表出は一体ではない。言葉での表現が難しい児童に対して、いかに表出手段や表現手段を確保していくか考えてほしい。
- ・ 相談とは自分が主体となってしまうもの。受け身での関わりが多い児童同士では、相談へ発展するのは難しい。主体的なコミュニケーションをとる状況を自然に、そして日常的に作っていくことが相談するという活動につながっていく。

<秋田県総合教育センター指導主事 進藤拓歩先生から>

- ・ 教師と児童がつくる温かい雰囲気を感じることができた。
- ・ 導入の歌は、学習したことや今後学習することが歌詞になっていて魅力的であった。
- ・ 伝えたいことがあるが、うまく言葉にできない児童の葛藤が見られた。話形が示されていたとしても、話したい内容がないと伝えることができない。ICT機器を提示したり、代弁したりして教師がコミュニケーションの仲介をする場面があったが、言葉だけではなく、身振りなどの児童の表出を広げてつないで、粘り強く児童とのやりとりを大切にできていた。
- ・ 活動の中の抽象的なことを具体的にしていく必要がある。相手の立場に立って考えることは難しいことではあるが、具体物を提示することで、体験から「低学年の子にとって分かりやすいもの」を考えることができるのではないかな。
- ・ 1つの活動の中に相談と制作を繰り返すのは複雑に感じる。考える場面と作る場面を分けたり、友達と関わらないと解決できない課題を設定したりするなどの工夫が考えられる。
- ・ 指導案は、単元名や目標から教科や領域、内容がイメージできるようにすると分かりやすくなる。
- ・ 小学部段階においてインタビューやアンケートの活動を行う場合は、国語科を要として言語能力の育成や言語活動として取り扱っていくことが必要である。

Next→全校授業研究会(中学部)についてお伝えします。

研究授業



授業研究会